

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	佐賀県立神埼清明高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○総合学科の特色を活かしたカリキュラムの構築については、今後の教育活動の充実・発展につなげることができた。 ○10の清明力のうち、半数以上が高まったと自己評価する生徒の割合が48%となり、更なる成長を遂げることができた。</p> <p>○授業及び系列選択の満足度は90%を超え、働くことの意義と自分の進路について考える生徒の割合も90%を超え、「産業社会と人間」におけるキャリア教育の充実、「総合的な探究時間」により進路実現と社会貢献の意欲を高めることができた。</p> <p>○基礎学力の向上、自己実現及び進路実現のためのキャリア教育の充実、体験的・探究的な活動の充実、地域との交流・連携活動の進化・発展についての取り組みを推進する。</p>
2 学校教育目標	<p>【校訓】 清明：清く明るい豊かな心を育て、将来に対して夢と希望を有する人材を育成する。</p> <p>創造：学んだ知識・技術や体験を基礎にして、新しいものを創り出す人材を育成する。</p> <p>精励：何事にも一生懸命、真摯な態度で臨む人材を育成する。</p> <p>【めざす生徒像】 「より良き人生を送るために、学び、考え、挑戦する生徒」 ⇒ 「主体性」・「思考力」・「創造力」・「計画力」・「実行力」の育成</p> <p>「より良き社会を創るために、自他を尊重し、協働する生徒」 ⇒ 「自己肯定力」・「寛容性」・「規律性」・「対話力」・「発信力」の育成</p>
3 本年度の重点目標	<p>①生徒が主体的に学び、考える授業を目指す。 ②生徒が自分の夢や目標の実現に向けて挑戦する「志を高める教育」に取り組む。 ③社会人として必要なマナーやモラルをキャリア教育の一環として育成する。</p> <p>④豊かな心を育む教育の充実を図る。 ⑤部活動など課外活動の活性化に取り組む。 ⑥地域に信頼される学校づくりを推進する。 ⑦学校における働き方改革を推進する。</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者			
(1)共通評価項目												
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価			学校関係者評価		
					進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○授業の充実と改善	○生徒が「学び」、「考え」、「挑戦する」ことができる授業を通して「主体性」「思考力」「創造力」「計画力」「実行力」を育成し、生徒の授業満足度を80%以上とする。	○「基礎力診断テスト」の活用による学力向上	○公開授業週間を設定し、教員が指導方法を互いに学び、研究する機会とする。 ・各教科で1回以上の研究授業を実施し、授業の工夫、改善を図る。	B	・2学期に公開授業週間を設定し、教科を横断した授業参観で、授業の工夫等を共有した。 ・半数程度の教科で研究授業を実施した。今後も研究授業は継続する。	B	・生徒の授業満足度は96%であった。 ・公開授業週間では、教科を横断して授業の工夫を共有できた。 ・研究授業では、半数の教が実施したにとどまった。	B	・授業満足度の目標を上回っているところは評価できる。 ・全教科で研究授業を実施する点は課題であり、検討の必要あり。	各教科主任 各系列主任	
		○GTZ(学習到達ゾーン)のA・Bの生徒数が前年比増、D3の生徒数を前年比減とする。	○年3回実施する「基礎力診断テスト」のGTZ(学習到達ゾーン)別分布や上位者一覧を作成し、前年度や前回の差などの情報を全教職員で共有し、生徒の学力向上に努める。	B	・実施済みの「基礎力診断テスト」2回分について、分析資料を作成し、職員会議で報告した。	B	・全教職員での情報共有は実現できた。 ・「基礎力診断テスト」の結果は、前年度と比較すると、ABが45名→43名、D3が40名→56名であった。	B	・生徒一人一人の学力が学年進捗とともに、どのように変化しているのかを分析した方が良い。	進路指導主事 各教科主任 各系列主任		
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○教育活動全般を通して、自他を尊重し協働する生徒の育成を目指す。「自己肯定力」「寛容性」「規律性」「対話力」「発信力」の5つの資質・能力のうち、3つ以上の項目が「高まった」と自己評価する生徒の割合を60%以上とする。	○人権教育についての講演会を実施する。 ・授業や講演会で情報モラル教育を実施する。 ・家庭や地域社会、PTA組織との連携を密にし、効果的な道徳教育の在り方を探る。	B	・「部落差別のない社会実現」という演題で人権教育講演会を電子黒板を用いて実施した。 ・LHRでネットトラブルの危険性について授業を実施した。 ・各教科で道徳教育全体計画に基づいた授業を実施している。	B	・「清明力」が3つ以上高まったと自己評価する生徒の割合は17%、現状維持の割合が60%であった。 ・10月に「部落差別の解消」について講演会を実施した。 ・5月に「進路保障」、11月と1月に「性の多様性」についてのLHRを実施した。 ・5月にLHRでネットトラブルの危険性について授業を実施した。	B	・「清明力」の自己評価については、3年後の卒業時に「高まった」という結果になれば良いのではないかと。		人権教育担当者 情報モラル教育担当者 道徳教育担当者 各系列主任	
		○いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止(いじめの定義、防止の取組、事業対処等)について、組織的な対応ができていると回答した教職員の割合を90%以上とする。	・いじめ防止対策推進法によるいじめの正確かつ積極的な認知を行う。 ・いじめアンケートを年2回以上実施する。 ・教育相談週間や長期休業前後の個人面談を実施し、いじめや悩みなどの早期発見や早期対応を組織的に行う。	B	・8月に研修会を開き、いじめの定義を職員に周知した。 ・1、2学期当初に教育相談週間を設定し個人面談を行い、いじめや悩みの早期発見に努めた。今後も個人面談を予定している。 ・いじめアンケートを6月に実施した。第2回目のアンケートを11月に実施予定。	A	・90%以上の教職員が、いじめ防止について組織的な対応ができていると回答した。 ・認知件数は33件であった。法の定義に則って積極的に認知、対応することができた。 ・教育相談週間を設定することで悩みや困りごとを早期に見つけることができた。	A	・認知件数が増え、組織的な対応ができていることは評価できる。 ・今後も適切な対応をお願いする。		生徒指導主事 教育相談担当者 各学年主任
		○ふるさと佐賀への思いを醸成する教育活動の実施	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかといえば感じる」と回答する生徒の割合を80%以上とする。	・「佐賀語り」やDVD教材を活用し、佐賀県の良さを発見させる。 ・外部講師による郷土愛を育む講演会を実施する。	B	・朝読書の時間に、「佐賀語り」やDVD教材を視聴し、佐賀県の歴史や自然について学んでいる。 ・2年生では、佐賀県についての探究活動を行い、佐賀県の魅力について調査研究した。 ・外部講師による講演会を2月に実施予定。	A	・「佐賀県に誇りや愛着を感じる、どちらかといえば感じる」と答えた3年生は、83%であった。「佐賀語り」やDVD教材を使い、郷土の歴史や自然について学んだ。2年生では、佐賀県の魅力について調査したり、講演を聞き佐賀県についての探究活動を行った。 ・2月には3年生に向けて「海外から見た佐賀について」の講演会を実施した。	A	・佐賀への思いを醸成する教育活動がしっかりとされており、進路先が地元志向であるという結果に現れていると思われる。 ・継続した指導をお願いする。		
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	○年度当初に交通安全講話を実施することで、交通安全や交通マナーについての意識の定着を図る。 ・登校時の交通安全指導、自転車街頭指導、駐輪場の整理、鍵かけ運動、自転車点検、交通委員会の充実を行う。	B	・交通事故が5件発生した。交通事故ゼロは達成できていない。 ・校外の交通危険箇所での登校指導を継続中。 ・4月に自転車安全利用に関する講話、5月に自転車点検を実施した。 ・生徒会とタイアップし、毎朝、駐輪場の整理や鍵かけ運動を継続中。 ・5月に福祉研究部とタイアップし街頭指導を行った。11月にも実施予定。	B	・登下校時の交通事故は6件発生した。幸い重大事故は発生していない。 ・年度当初に交通安全指導の一環として交通安全講話を実施した。 ・年間を通して生徒会とタイアップして駐輪指導、自転車街頭指導に取り組んだ。	B	・6件という発生件数が多いのか少ないのかが分からない。 ・今後も、事故に遭った際は、すぐ警察へ連絡するなど対応方法や、生徒が加害者になり得ることも指導していただきたい。	生徒指導主事 各学年主任		
		○健康に関する自己管理能力の育成	○自分は健康だと感じている生徒の割合を90%以上とする。	・定期的に「保健だより」を発行し、必要な情報を発信していく。 ・保健室を訪れる生徒の情報を学年主任及び担任、スクールカウンセラーと共有し連携して指導を行う。 ・健康観察、手洗いや手指消毒、教室の換気など、感染症の予防対策を徹底する。	B	・毎月保健だよりを発行し、健康についての情報を提供している。 ・生徒の健康に関する個別の相談には、担任、学年主任、スクールカウンセラーと連携して対応している。 ・新型コロナウイルス等の感染症予防の対応については、継続中である。	A	・自分が健康だと感じる生徒の割合は、89.9%であった。 ・保健だよりを毎月発行し、健康に関する情報提供を行った。 ・感染症予防については、学校内で策を講じた結果、「できた」と答えた生徒が97.3%であった。 ・生徒の個別対応を十分に行い、健康の保持増進に努めた。	A		・健康の定義が曖昧ではないか、身体だけでなく、心、食事面等様々考えられる。	保健主事 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を設定する。 ・学校閉庁日を設定する。 ・部活動の適切な休養日設定を推進する。 ・校務システム(メッセージ機能)やメール会議を活用した情報共有を行うなど会議の効率化を図る。	B	・定時退勤日を毎週月曜日に設定した。 ・学校閉庁日を8月に5日間設定した。 ・部活動休養日の積極的な設定、年次休暇の取得を推進した。 ・学校行事や会議の精選、業務の削減(縮減)に引き続き取り組む。	B	・時間外勤務時間が前年度より4%減少した。 ・定時退勤日、部活動休養日、学校閉庁日の設定について、計画通りに行った。 ・年次休暇取得について、約46%の教職員が、県の目標である14日間以上を取得していた。 ・業務の削減や効率化が進まなかった。	B	・時間外勤務時間の平均値が減少していることは評価できる。ただ、職員によって偏っていないか心配である。	管理職		

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)						評価	意見や提言	
○進路実現	○進路希望の実現	○就職内定率100%を目指す。 ○第一志望の大学・短大・専門学校への合格率100%を目指す。	・生徒の進路希望、適正や能力を把握し、受験指導、面接指導の充実を図る。 ・企業、大学、短大、専門学校との情報交換を密に行う。 ・進路検討委員会を開催し、生徒にとってより良い進路を検討し指導を行う。	B	・生徒、保護者の希望を聞き、適性、希望にあった進路指導を行った。また、進路情報の提供に努めた。 ・企業と情報交換を密に行った。 ・進学については、まだ可否結果が出ていないが、面接や小論文などの指導を計画的に行った。	A	・希望生徒の進学率100%、第一志望校の合格率は96%、就職では内定率100%であった。ほとんどの生徒が希望する分野に進むことができた。 ・生徒の進路希望を共に検討した上で、面接指導、小論文指導等に学校全体で指導に取り組むことができた。 ・企業、種々の上級学校と情報交換を密に行うことができた。	A	・生徒の進路希望を十分に叶えた成果がでていいる。今後も指導をお願いする。 ・進路先の殆どが県内であり、地域としてあげたい。	進路指導主事 3年学年主任及び担任 各系列主任
★総合学科の教育活動の在り方	★生徒一人一人と向き合うキャリア教育と探究活動を通じた教育活動の実践	★1年次:自分の「系列選択」に満足していると感じている生徒の割合を80%以上とする。 ★2年次:探究のプロセスを理解していると認識している生徒の割合を70%以上とする。 ★3年次:系列での「課題研究」を通して、「主体性」「思考力」「創造力」「計画力」「実行力」「自己肯定力」「寛容性」「規律性」「対話力」「発信力」のうち5項目以上が身についたと認識している生徒が60%以上とする。	・1年次は、自身の進路や将来について考える「ライフプラン」を中心に活動を行う。その為の取り組みとして、進路適性診断、職業教育、進路ガイダンス等を実施する。 ・2年次は、学級や系列での探究を通して、探究活動のシステムを理解させ、社会や地域における「答えのない活動」に挑戦することで、学ぶ意欲の向上を図る。 ・3年次は、系列での学びを深め、その集大成としての探究活動を実施し、中間報告会、総合学科発表会においてその成果を発表する。	B	・1年次:12月に行う系列科目選択の為、進路適性診断、産業・職業教育を自身の将来について考えるきっかけづくりを行った。 ・2年次:「佐賀県」についての探究活動を通して、探究のサイクルや探究の方法について理解させることができた。10月に行った探究に関するアンケートでは、「探究のプロセスを理解している」と回答した生徒の割合が97%と年度当初の目標を達成することができた。 ・3年次:生徒への探究に関する研修だけでなく、教員向けの探究に関する研修を実施することができた。また、2月に実施される総合学科発表会に向け、別途、生徒に対する発表指導等を行う予定である。	B	・1年次:系列選択に関する満足度調査では、「やや満足している・非常に満足している」と回答した生徒が89%となった。 ・2年次:探究のプロセスについて、「理解できた・十分理解できた」と回答した生徒が97%となった。 ・3年次:アンケート結果では、「主体性」「思考力」「対話力」「発信力」が向上したと認識している生徒の割合がすべての項目において、60%以上となった。しかし、3年次における探究活動のシステム作りについては課題が残る形となり、新年度に向けて、再検討が必要である。	B	・1年次の「系列選択に関する満足度調査」、2年次の「探究プロセスについての理解度」、3年次の「清明力の向上」についての目標値が達成されており評価できる。 ・新年度に向けて、システム作り課題を残しているという点については、継続して取り組みをお願いする。	企画研修部主任 各系列主任 各教科主任 各学年主任
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり										
5 総合評価・次年度への展望		<p>・生徒の授業満足度、系列選択に関する満足度は成果指標を達成しており、将来の職業選択を視野に入れた進路意識が高まった。</p> <p>・授業の充実と改善に向けて、研究授業及び相互の授業見学による指導内容と方法の共有を行う。</p> <p>・目指す生徒像の10の「清明力」のうち、5項目以上が高まったと自己評価する生徒の割合が60%を超えたことは、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の取り組みの成果だと考える。次年度も取り組みを継続したい。</p>								